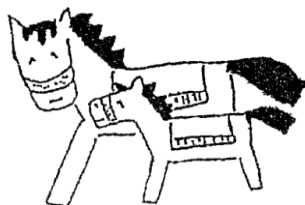


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

24年 8月 NO. 213



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		8月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
8月 4日	土	体験保育 10:00～12:00	同じクラスに入って いっしょにあそびましょう。	
8月 10日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「くだもの」についてのおはなしや 大型絵本でたのしみましょう。	
8月 11日	土	木工教室 14:00～16:00	簡単な空き間棚などつくれますので どなたでもどうぞ!	
8月 18日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方、乳児クラスにて 子育て体験をどうぞ。	
8月 25日	土	地蔵盆のつどい 17:00～20:00	縁日や盆おどり、花火大会、人形劇など 園庭で楽しいつどいをしましょう。	
8月 28日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり 相談できます。（予約要）	
8月 29日	水	みずぶさんの会 14:00～16:00	高松保護観察所の高橋俊郎氏から 業務内容や地域との連携について お話を聞きフリートークします。	

<ul style="list-style-type: none"> ・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。（但し、月・日曜・祭日は休み） 	<p>育児相談（月～土）9:00～18:00</p> <p>しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	---

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みずぶ童話全集⑥
「さみしい王女・下」より

波は子供、
手つないで、笑って、
そろって来るよ。
波は消しゴム、
砂の上の文字を、
みんな消してゆくよ。
波は兵士、
沖から寄せて、一ぺんに、
どどんと鉄砲うつよ。
波は忘れんぼ、
きれいなきれいな貝がらを、
砂の上においてくよ。



広がる「赤ちゃん登校日」

赤ちゃんとの触れ合いを通じて、児童、生徒の“人間関係力”を育む「赤ちゃん登校日」が全国に広がっています。プログラムを考案した鳥取大学医学部の高塚人志準教授の取り組みについて、ご紹介します。

赤ちゃんに向き合うことは、子どもたちにとってどんな意味があるのか？

一つ目は、人と真剣に向き合う基本を学べることだ。言葉のやりとりができない赤ちゃんと関わるには、子どもたち自身が心を開いて赤ちゃんに向き合い、赤ちゃんの様子から思いを読みとり、言葉をかけるしかない。このような体験は、人と向き合う際の基礎となるはずだ。実際、授業を受けたある小学生は、次のような感想文を提出してくれた。

「私は、相手の目を見て話を聞くのが苦手でした。授業でも、初めはなかなかうまくできなかったけど、最後の関わり体験では、相手の目を見て話を聞けました。自分も少し成長した気がします」

二つ目は、赤ちゃんが相手だと、子どもたちは安心して関わりができる。最近、学校関係者から「子どもたちの“伝える力”が未熟だ」という話を聞くことが多い。その一因は、自分の考えや気持ちを安心して伝えられる人間関係が少ないからではないか。

相手が赤ちゃんなら「いま、忙しいから」「あっちに行け！」などと言われたり、否定や批判の言葉を浴びせられることはない。子どもたちは、自分の考えや気持ちを安心して言葉にできるのだ。

三つ目は、一人では何もできない赤ちゃんを目の当たりにすることだ。赤ちゃんは母乳にミルク、排せつなど、身の回りの世話をしてもらわなければ生きていけない。その姿を見て、自分がどれだけ親に愛され、世話になってきたのかを体験できるのだ。

子どもたちは自分が愛され、大切にされていると実感することで、心が癒やされ、生きる元気と勇気がわいてくる。そして、自然と自分自身を大切にようになる。

授業を通して、お互いに認め合い、許し合うことが幸せだと体感した子どもたちは、その体験をふだんの学校生活などで生かし始める。そばにいる人と真剣に向き合い、関わり合い、分かり合うようになり、安心して学べる学習環境を手に入れていく。

《大切に思う気持ち》

人は、人との関わりを積み重ねることで、他者の価値観や考え方を自分自身の心の中に取り込み、成長していく。人は、人と関わることで変わるのだ。人が命を輝かして生きるには、人と関わり、つながる必要がある。



2009年から「赤ちゃん登校日」に取り組む江津東小学校で、赤ちゃんを抱っこする児童。今年7月、江津市後地町

コミュニケーションを学び、赤ちゃん親子との関わり体験を継続することは、私たちがどこかに置き忘れてきた「自分とそばにいる人を大切に思う気持ち」を思い出させてくれる。

鳥取県で誕生した「赤ちゃん登校日」授業は、鳥取、石川、奈良、静岡県に広がっている。山陰でも、今以上にこの授業を取り入れる学校が増えることを願っている。「自分とそばにいる人を大切に」子どもたちが増えることで、次世代の子育てが変わり、今以上に思いやりの心があふれる日本になるためにも。



人間関係力を学ぶ「赤ちゃん登校日」授業は、決して児童・生徒のためだけのものではない。児童・生徒と向き合った赤ちゃんの親の声を届けたい。

《親の声より》

まずは、夫婦のありさまを見つめ直すきっかけになったという母親の声。「愛し合って結婚した2人。子育てに多忙な毎日の中で『私が、私が…』と自分のことばかりだったように思う。そばにいる人にあたたかい関心を向けることの大切さに気づいた。これからも、夫とわが子を愛し、しっかり向き合い、関わり合い、分かり合う気持ちを持ち続けたい」。パパも同じ思いだったという。

わが子の大切さを再認識した母親もいる。「育児に追われ、わが子がそばにいてくれることの大切さを忘れがちでしたが、児童から『赤ちゃん見てたらやさしい気持ちになるね』『あたたかい気持ちになるね』『かわいいね!』と言葉を届けてもらうことは親として喜びでした。わが子への愛情が深まりました」

パパママが輝けば子どもも光り輝く。パパママへの何よりの子育て支援ではないか。全国で起きている虐待やネグレクトもなくなるかもしれない。

児童と向き合う先生たちはどうだろうか。他県でいち早くこの授業に取り組んだ石川県金沢市立野町小学校の先生はこんな感想を残した。

「会場はやわらかい、あたたかい表情でいっぱいになった」「『なぜ、日々の生活、日々の授業の中では、この表情は生まれぬのか…』。答えは明白である。日々の生活の中で大人たちが赤ちゃんのように、丸ごと受けとめていないからである。もつともつと、日々子どもたちの仕草一つ一つを見つめて、よさを認めてあげたい。そして、もつともつと、一人一人に自信をもたせてあげたい」（「赤ちゃん力」高塚人志著、エイデル研究所＝より）

《生き方見直す機会に》

この授業は児童・生徒だけでなく、赤ちゃんの親やサポートする教職員、児童の保護者、参観する地域の人たち、行政関係者にとっても、自分自身と向き合い、自らの生き方や普段の人間関係を見直す機会になっている。

授業を終えたある小学校長が「今、本校には赤ちゃん登校日授業を体験した子どもたちと先生がいます。これは学校の財産である。確実に根を張り、幹となっていく母体にしていかなくてはならないとの思いを新たに。『人間関係力』を生きる力として育てていきたい」と力強く語ったことが忘れられない。

香川県の取りくみ 「赤ちゃん登校日モデル授業」について

23年度に地域教育力再生事業の一環として香川県も取りくみ、「赤ちゃん登校日モデル事業」として香川県立香川中央高校3年生19名、坂出市立瀬居中学校1～3年生17名、東かがわ市立本町小学校6年生1クラスが学校の体育館や会議室で実施しました。

中学生や高校生は、教職員研修打ち合わせのあと、生徒と事前学習し、2回の赤ちゃん登校日でした。他にNPO法人子育てネットくすくすやわははネットも中高学生と交流し、ふれあい体験活動をしました。



授業プログラム

〈準備 事前学習〉

授業の計画立案
児童生徒とのグループづくり
招待状の発送

★事前学習の実施

(マナーやコミュニケーションの学習)

あいさつを考える
そばにいる人とすてきな時間を過ごすために
関心を持つ・見る・聴く
赤ちゃん親子と関わるためのマナー

〈関わり体験1回目〉

★赤ちゃん親子との関わり体験1回目

- 事前学習のおさらい
- パートナーとの対面・自己紹介
- お父さんやお母さんから話を聴く
(子育てのこと、赤ちゃんのこと)
- 関わり体験
(自分ではなにもできない赤ちゃんの気持ちを
わかってもらう)
- 振り返り
- お見送り
振り返り・分かち合い

〈関わり体験2回目〉

★赤ちゃん親子との関わり体験2回目

- あいさつ
- 赤ちゃんの父母から、1ヶ月の赤ちゃんの成長
などのお話を聴く
- 関わり体験
(いないいないばあ 赤ちゃんの表情をよみ
とるなどの体験)
- 振り返り ●生徒保護者からの手紙の代読
- お見送り
振り返り・分かち合い

赤ちゃん親子へお礼の手紙を書く

〈生徒の感想としては〉

- ・育てるなかにもたいへんさや楽しさといういろいろな
場面があることがわかった。
- ・人とのコミュニケーションは興味を持つことから。
- ・親に感謝しないといけないと思う。
- ・赤ちゃんは一日ごとに変化することがわかった。
- ・人に支えられ、愛されて生きている。
- ・恥ずかしい気持ちがなくなった。

〈参加された赤ちゃんのママの感想としては〉

- ・人との関わりかた、向き合い方を考えるきっかけとなり、
いろいろと授業の後、家でも考えることがありました。中
学生の一生懸命さもすごく新鮮でした。
- ・自分の普段の生活を省みるよい機会となりました。家族
を大切に思う気持ちはいつも持っていますが、ひとつひとつ
の態度や言葉でそれを伝えられているかということ、できて
いないことがほとんどです。子どものことをしっかりと見て、
話を聴く、赤ちゃんをしっかり抱きしめる、日々心が
けていきたいと思います。

*お問い合わせ

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課

TEL 087-832-3774

FAX 087-831-1912

香川県でも23年度のモデル授業として実施し、学校の教師、生徒にも好評で、赤ちゃんの親にとっても大きなメリットがありました。乳幼児のいる保育園でも小、中学生と赤ちゃんとの関わり大切さを痛感していました。乳幼児のいる保育園でも協力できることは、たくさんあったのですが保育園へ周知されることなくこの事業が終ったことは大変残念に思います。子育て広場や子育て支援センターや保育園と学校をつなぐ役わりを、行政側がもっと丁寧にすべきでなかったかと感じました。

(堀 侃子)